

2020年7月1日

日本ユニシス スマートメーターを活用した構内電気使用量の自動検針サービスに クラウド型エネルギーマネジメントサービス「Enability EMS (UNIBEMS)」を提供

日本ユニシスは、中部精機と中部電力パワーグリッドが新たに開始する、構内電気使用量の自動検針サービス「スマート子メーター」^(注1)に、クラウド型エネルギーマネジメントサービス「Enability EMS (UNIBEMS)」の提供を開始します。

「スマート子メーター」は、集合住宅・商業施設・工場などの構内の各戸・各機器に設置する子メーター^(注2)にスマートメーターを導入することで、これまで目視で行っていた検針作業の自動化、電力使用量の見える化、料金計算のためのデータダウンロードや、HEMS^(注3)などへのデータ連携ができるため、サービス利用者は、日々の検針・使用量算出に係る労力が大幅に軽減されるとともに、ダウンロードデータを活用し省エネや負荷平準化などのエネルギーマネジメントを可能にする新たなサービスです。

日本ユニシスは、「Enability EMS (UNIBEMS)」により、中部精機、中部電力パワーグリッドが収集するスマートメーター情報をクラウドサーバーに集約管理し、サービス利用者に対して、電力使用量の見える化、店舗、建物単位での集約や比較、検針値や電力使用量のダウンロードなどの機能を提供します。

【背景】

商業施設やテナントビル、工場などの構内に設置されている電力メーターは、これまで検針員による目視検針が必要な機械式メーターが導入されていました。

機械式メーターをスマートメーターに置き換えることで、施設管理者による日々のエネルギー利用状況の管理が可能となり、電力使用量の削減や自家消費電力の利用促進へ活用することで、省エネやCO2削減など、コスト削減と環境負荷低減が図れます。

【Enability EMS (UNIBEMS)」の概要】

「Enability EMS (UNIBEMS)」は、建物における電力・ガス・水道など多様なエネルギーを対象とし、エネルギー利用状況の収集や見える化、機器の遠隔制御によるエネルギーリソースの管理など、ビルのエネルギーマネジメントサービス (BEMS) を提供します。

【今後の取り組み】

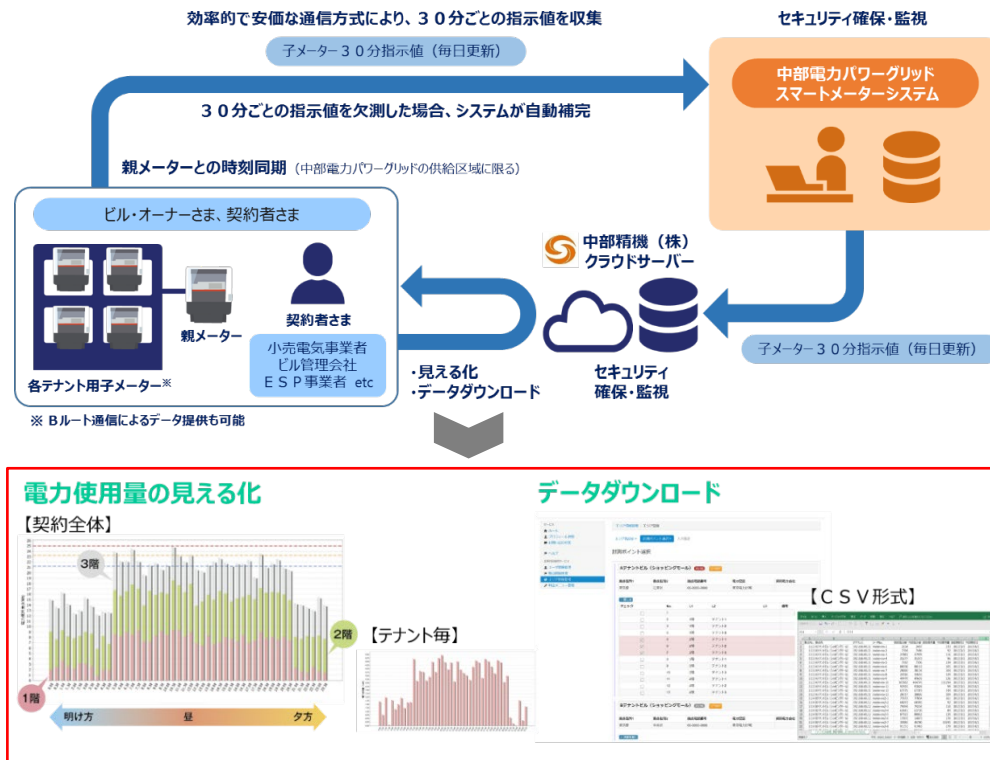
日本ユニシスは、今後もエネルギー利用の最適化やCO2削減など、持続可能な社会の実現に寄与するサービスの提供に取り組んでいきます。

以上

※注1：構内電気使用量の自動検針サービス「スマート子メーター」

中部電力パワーグリッドの所有する電力スマートメーターを各テナントの子メーターなどとして設置し、電力スマートメーター通信網・システムを経由して、30分単位の検針データをクラウドサーバーに収集・蓄積し、見える化します。また、データをダウンロードし、使用量算出などに活用することも可能です。

(サービス提供イメージ)



Enability EMS (UNIBEMS) にて提供

※注2：子メーター

施設の所有者などが設置・管理するメーターで、個々の需要地点または発電地点に設置し、使用量を計量するための機器。一般に、施設の所有者などが一括で支払った電気料金を入居者やテナントに配分するために使用される。

※注3：HEMS

「Home Energy Management System」の略語。エネルギーを管理・制御するためのシステムのこと。ネットワーク接続される電気設備の使用量の見える化や遠隔または自動での制御を可能とする。

■関連リンク

- ・クラウド型エネルギー管理サービス「Enability EMS (UNIBEMS)」
<https://www.unisys.co.jp/solution/lob/energy/ems/unibems.html>
- ・中部電力パワーグリッド株式会社 <https://powergrid.chuden.co.jp/>
- ・中部精機株式会社 <http://www.chubuseiki.co.jp/>

※Enability、UNIBEMSは、日本ユニシス株式会社の登録商標です。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>

https://www.unisys.co.jp/newsrelease_contact/